

2017年度千葉大学西千葉キャンパスにおける環境目的・環境目標・実施計画

Ver.16  
42826

環境方針 I. 総合大学としての特長を活かした環境教育・研究

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016~2018年度	2017年度	項番	17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
I-1	環境教育・学習・研究	一般教育・研究部門/実験系教育・研究部門	大学・大学院における環境教育・研究を推進し、学内における環境関係の教育・研究を充実させる。	環境に関係する教育・研究機会を維持し、増加させ、また学内での環境教育の状況について、情報公開を行う。	[1]	環境に関連するカリキュラムの数を調査し、またその受講者数を維持・増加させるための取り組みを検討する。	各学部・大学院、普通教育担当教員	カリキュラム作成時	環境関連科目一覧表と検討記録によって確認する。	記録—各学部・大学院、確認—環境ISO学生委員会	1回/年	・環境関連科目：357科目(前年度比+44) ・環境関連書籍：4304冊(前年度比+107) ・環境関連科目の情報をHPで公開	○	—
					[2]	附属図書館における環境に関連する書籍等の数を増加させる。	附属図書館	通年	環境関連図書一覧表によって確認する。	記録—附属図書館、確認—環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	附属図書館における環境に関連する書籍等の貸し出しを促進させる。	附属図書館、環境ISO学生委員会	通年	環境関連書籍貸し出し冊数一覧表によって確認する。	記録—附属図書館、確認—環境ISO学生委員会	1回/年			
					[4]	学内での環境教育の状況について、ホームページ・SNS等の利用により積極的に情報公開を行う。	環境ISO学生委員会	通年	ホームページ・SNS等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
I-2	附属学校における環境教育	附属学校部門	附属中学校・小学校・幼稚園における自主的な環境教育プログラムを充実させる。	附属中学校・小学校・幼稚園における自主的な環境教育プログラムの継続と発展を図る。	[1]	附属中学校において、環境ISO委員会と学生委員会とが連携を図りながら、環境教育プログラムの継続と発展を図る。	環境ISO学生委員会、附属中学校環境責任者	通年	環境ISO事務局において実施記録を作成し、確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・附属幼稚園・小中学校で環境教育を実施 【幼稚園】環境紙芝居読み聞かせ、クリーンデー 【小学校】環境ISO校内美化委員会の継続 【中学校】環境ISO委員会の継続	○	—
					[2]	附属小学校において、環境ISO校内美化委員会を通じて、環境教育プログラムの継続と発展を図る。	環境ISO学生委員会、附属小学校環境責任者	通年	環境ISO事務局において実施記録を作成し、確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	附属幼稚園における環境教育プログラムの継続と発展を図る。	環境ISO学生委員会、附属幼稚園環境責任者	通年	環境ISO事務局において実施記録を作成し、確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

環境方針 II. 環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016~2018年度	2017年度	項番	17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-1	用紙類使用量削減	共通事項	用紙類の使用量を今後3年間にわたり年平均で1%以上削減する。	用紙類の使用量を前年度比で1%以上削減する。	[1]	裏紙の使用、両面印刷等の利用、電子媒体の利用及び使用済み封筒の再利用を促し、用紙類の削減に努める。	各部局総務担当者、構成員、準構成員	通年	アンケート等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・紙類購入量(A4版換算前年度比102.7%)	×	・イベント増に伴うチラシ類の増加のため。
					[2]	学生の用紙使用量削減を促進する。	環境ISO学生委員会	通年	実施状況等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-2	用紙類再利用	共通事項	用紙類の再利用・分別回収を定着させる。	用紙類の再利用・分別回収をキャンパス全体に浸透させる。	[1]	ミックス古紙回収システムの正しい分別の下での利用を促すことにより、紙ごみ回収率の向上に努める。	環境ISO学生委員会	イベント実施時・通年	回収記録・実施状況等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・用紙類の分別回収、裏紙利用の励行 ・ミックス古紙回収システムの継続実施 ・リサイクルボックス等の継続設置	○	—
					[2]	裏紙の回収を促進する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	不要になった用紙のうち、裏紙としての使用が不可能なものについては指定の回収場所に持参する。	各部局等総務担当者、各研究室等	通年	アンケート等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[4]	用紙類再利用に関して、新たな取り組みまたは改善を検討する。	環境ISO学生委員会	通年	検討記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-3	水使用量削減	共通事項	水の使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	水の使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[1]	施設新設・増設・改修時の節水型設備の導入に努める。	施設環境部	施設改修時	改修記録等によって確認する。	施設環境部	1回/年	・水資源投入量（前年度比105.3%）	×	・理学部3号館の実験機器冷却水の井水バルブの故障により増加のため。
					[2]	漏水等の早期発見とその処置の迅速化に努める。	施設環境部	通年	調査記録によって確認する。	施設環境部	1回/年			
					[3]	トイレ・水栓の維持・管理に努める。	施設環境部	1回/年	実施記録によって確認する。	施設環境部	1回/年			
					[4]	節水に努める。	構成員、準構成員	通年	アンケート等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・節水型設備の導入の推進 ・節水を促すステッカーを構内に掲示 ・漏水に対する早期発見と処置の実施	○	—
					[5]	ステッカー等によって節水を促進する。	環境ISO学生委員会	通年	ステッカーの貼付状況等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[6]	定期的に水の消費量を把握し、周知に努める。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			
II-4	廃棄物抑制	共通事項	廃棄物分別を徹底し、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の促進を図る。	廃棄物の分別の徹底および廃棄物の排出量を削減することに努める。	[1]	ごみの排出抑制及びごみと資源等の分別に努める。	構成員、準構成員	通年	①アンケート ②分別状況 ③一般廃棄物排出量データによって確認する。	記録—①②環境ISO学生委員会、③施設環境部 確認—環境ISO学生委員会	1回/年	・一般廃棄物排出量（前年度比89.4%） ・産業廃棄物排出量（前年度比82.8%）	○	—
					[2]	ごみの分別状況及び一般廃棄物の排出量を構成員・準構成員に対して周知する。	環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	分別表示によって、キャンパス利用者によって分別BOXや廃棄物集積所における分別を促す。	環境ISO学生委員会、各部署総務担当者	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・レジ袋有料制度の継続実施 ・分別表示ポスターを構内に掲示 ・ペットボトルキャップの分別回収 ・分別状況調査の実施 ・大学祭での分別と発生抑制の促進	○	—
					[4]	学内における3Rシステムの発展のための取り組みを実施する。	環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-5	グリーン調達	共通事項	環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を大学の物品購入において推進する。	大学の物品購入において千葉大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。	[1]	グリーン調達方針に基づき、グリーン購入基準適合製品を選択する。	教職員(発注者)	通年	連絡された品目等の記録によって確認する。	記録—契約課、確認—環境ISO学生委員会	1回/年	・グリーン調達方針の学内への周知を継続	○	—
					[2]	グリーン購入基準適合製品以外の製品を選択した場合には、その品目・数量を契約課に連絡するという手続きを意識する。	教職員(発注者)	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-6	化学物質管理	実験系教育・研究部門	化学物質の適正な管理を行う。	化学物質の適正な管理を徹底する。	[1]	化学物質の適正管理に関する啓発活動を実施する。	総合安全衛生管理機構	通年	実施状況によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・化学物質管理システム(CUCRIS)の利用 ・ホームページなどによる有害廃棄物処理手順の周知 ・基礎研修などにおける化学物質の適正管理方法の周知 <2017年7月に劇物に指定されている硝酸銀(約400g)が医学部棟から紛失(7月20日記者発表)> > ・(紛失事件を受けて)部局の化学物質管理責任者に、盗難・紛失防止策の徹底を要請 ・9月の内部監査においても化学物質を重点的に監査 <2017年12月の外部審査において工学部でクロロホルム(劇物)の使用量記録が7月以降なされていないことが発覚し、軽微な不適合の指摘を受ける。> ・巡回検査、抜き打ち検査を行うなど毒劇物の管理対策を強化	×	・毒劇物の管理対策の重要性について徹底されなかったため。
					[2]	千葉大学化学物質管理システム(CUCRIS)の利用等によって化学物質の適正な管理を行う。	化学物質取り扱いユニット	通年	運用状況によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	新たに不要薬品が発生した場合、不要薬品の安全管理を徹底し、速やかに廃棄する。なお、廃棄方法等不明な点がある場合は、総合安全衛生管理機構に問い合わせる(または相談する)。	化学物質取り扱いユニット	通年	内部監査結果によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016~2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-7	廃水浄化	食堂部門	廃水の浄化を促進する。	廃水の浄化のためのシステムを運用する。	[1]	グリストラップの設置を継続し、定期的に洗浄する。	食堂部門ユニット環境責任者	グリストラップの種類に応じて食堂部門ユニット環境責任者が定める頻度	洗浄記録によって確認する。	記録—食堂部門ユニット環境責任者、確認—環境ISO学生委員会	1回/年	・グリストラップの継続設置・数日ごとの定期的洗浄 ・厨房機器の油分拭き取りの励行	○	—
					[2]	必要に応じてペーパータオル等での厨房機器の油分拭き取りを励行する。	食堂部門構成員	通年	インタビューによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-8	生ごみ処理	食堂部門	生ごみの発生量を抑制する。	生ごみの発生量を抑制するためのより効率的な取り組みを促進する。	[1]	生ごみの発生量を把握する。	食堂部門ユニット環境責任者	1回以上/月	生ごみの発生量記録・インタビューによって確認する。	記録—食堂部門ユニット環境責任者、確認—インタビュー—環境ISO学生委員会	1回/年	・生ごみ発生量を記録・削減方法の検討 ・食堂部門における小盛りメニューの販売・作り置き抑制・ビュッフェ形式により食べ残しを削減	○	—
					[2]	食品廃棄量抑制のための取り組みを促進する。	食堂部門ユニット環境責任者	通年	実施状況によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	生ごみの堆肥化を検討し、実施する。	食堂部門関係構内事業者、環境ISO学生委員会	1回以上/年	検討記録・実施記録によって確認する。	作成—環境ISO学生委員会、保管—構内事業者、確認—環境ISO学生委員会	1回/年			
II-9	廃油抑制	食堂部門	廃油の発生抑制・適正処理を行う。	廃油の発生抑制・適正処理のためのシステムを運用する。	[1]	廃油の発生抑制の取り組みを促進する。	食堂部門ユニット環境責任者	通年	インタビューによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・廃油の発生抑制(ろ過機能付きフライヤーの導入・清掃等) ・廃油適正処理のためのシステム運用(廃食用油専用マニフェスト等) ・亥鼻地区において自主検査による2件の下水排除基準超過が起った。	○	—
					[2]	廃油を適正に保管し、適切な認可業者へ処理処分を依頼する。	食堂部門ユニット環境責任者	食堂部門ユニット環境責任者が定める頻度	依頼量・依頼先の記録によって確認する。	記録—食堂部門ユニット環境責任者、確認—環境ISO学生委員会	1回/年			
II-10	グリーン購入	物品販売部門	グリーン購入の取り組みを促進する。	グリーン購入基準適合製品の品揃えを充実させ、その情報提供を進めて積極的な選択を促す。	[1]	千葉大学のグリーン調達方針とグリーン購入基準適合製品の内容をユニット構成員に伝える。	物品販売部門ユニット環境責任者	第1四半期	実施記録等によって確認する。	記録—物品販売部門ユニット環境責任者、確認—環境ISO学生委員会	1回/年	・グリーン購入基準適合製品の品揃えの充実 ・グリーン購入基準適合製品の表示の明確化・情報発信 ・グリーン購入基準適合製品の購入促進	○	—
					[2]	グリーン購入基準適合製品の品揃えを充実させる。	物品販売部門ユニット環境責任者	通年	インタビュー等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	グリーン購入基準適合製品かどうかを購入者に伝え、その購入を促進する。	物品販売部門ユニット環境責任者	通年	実施記録等によって確認する。	記録—物品販売部門ユニット環境責任者、確認—環境ISO学生委員会	1回/年			
II-11	物品販売における3R	物品販売部門	物品販売に伴う廃棄物の削減・循環利用を定着させる。	物品販売に伴う廃棄物の削減・循環利用を促進する。	[1]	充電機・インクカートリッジ・トナー等の回収システムを維持し、その回収・循環利用を促進する。	物品販売部門ユニット環境責任者	通年	実施記録・インタビューによって確認する。	記録—物品販売部門ユニット環境責任者、確認—インタビュー—環境ISO学生委員会	1回/年	・生協におけるレジ袋有料化制度の継続 ・使用済みインクカートリッジ等の回収	○	—
					[2]	レジ袋有料化を継続し、レジ袋の利用状況・れじぶー基金の収支を確認して、ホームページ等で公表する。	有料化—ライフセンター、確認—生協、公表—環境ISO学生委員会	通年	ホームページ等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-12	環境関連書籍	書籍販売部門	環境関連書籍に対する関心を高める。	環境関連書籍の品揃えを充実させ、その情報提供を進めて積極的な選択を促す。	[1]	ブックセンターにおける最新の社会情勢に適した環境に関連する書籍等の導入に努める。	ブックセンターユニット環境責任者	通年	書籍リストによって確認する。	記録—ブックセンターユニット環境責任者、確認—環境ISO学生委員会	1回/年	・ブックセンターにおいて社会情勢に適した環境関連書籍の取り扱い ・環境関連書籍の啓発を実施	○	—
					[2]	環境関連書籍に対する関心を高めるための啓発活動を行う。	ブックセンターユニット環境責任者	通年	実施記録によって確認する。	記録—ブックセンターユニット環境責任者、確認—環境ISO学生委員会	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的		項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-13	落ち葉・剪定枝処理	外回り部門	有効利用される落ち葉等の量を増やす。	落ち葉等の有効利用を展開する。	[1]	「けやきの子」プロジェクトを堆肥化等検討会議を開いて検討し、進める。	環境ISO学生委員会	通年	会議構成員名簿・議事録を作成し、保管された当日資料と実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・堆肥化「けやきの子」プロジェクトを進める ・落ち葉の有効利用方法に関する情報収集	○	—
II-14	緑の管理	外回り部門	構内の緑を維持・管理する。	構内における緑地の状況を把握し維持・管理を継続するとともに、水辺空間の管理方法について検討する。	[1]	構内の緑地・水辺空間の適切な維持・管理・活用方法を検討し、実施する。	キャンパス整備企画室、施設環境部、環境ISO学生委員会	通年	検討記録・実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・構内緑地の維持・管理 ・緑化活動の促進 ・清掃の企画・水辺空間の管理方法検討	○	—
[2]	学生や教職員の主体的な緑化活動を把握し、促進する。	環境ISO学生委員会	通年	インタビュー・実施記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年								
[3]	教職員と学生による定期的な構内の美化・清掃を企画する。	各部局総務担当者	1回/半年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年								
II-15	自転車管理	外回り部門	放置自転車を削減し、大学構内において自転車を正しく「乗る」「停める」「捨てる」の三本柱を主軸とした自転車利用を浸透させ、構内の自転車環境を整備する。	構内の放置自転車の撤去をすすめるとともに、正しい自転車利用方法の周知とマナーの向上に向けて、必要かつ効果的な施策を進める。	[1]	「西千葉地区構内における車輛の交通規制実施要領及び同細目」に基づいた自転車利用をする。	構成員、準構成員	通年	アンケート・駐輪状況調査によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年	・自転車駐輪状況を確認 ・放置自転車の撤去 ・自転車ステッカーの交付 ・基礎研修やポスターによる自転車利用マナーの啓発 ・シェアサイクル利用の促進	○	—
[2]	「西千葉地区構内における車両の交通規制実施要領・同細目」に基づいた自転車利用を構成員及び準構成員に周知し、適切な利用を促す。	施設環境部	通年	周知の記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年								
[3]	自転車の利用者登録を行い、当年度のステッカーを交付し、その貼付状況を確認する。	交付—施設環境部、登録・確認—各部局担当者	通年	ステッカー交付枚数、貼付状況調査によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年								
[4]	自転車の回収システムを運用し、回収した自転車を適切に処分する。	環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年								
[5]	西千葉地区構内における車輛の交通規制実施要領及び同細目に基づき放置自転車及び迷惑駐輪・違法駐輪車の撤去を行う。	施設環境部	通年	撤去台数等記録によって確認する。	記録—施設環境部、確認—環境ISO学生委員会	1回/年								
[6]	西千葉駅・みどり台駅周辺における迷惑駐輪の状態の改善方法について検討する。	キャンパス整備企画室、環境ISO学生委員会	通年	検討記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年								
[7]	シェアサイクルの適切な運用を促進する。	キャンパス整備企画室	通年	運用記録によって確認する。	キャンパス整備企画室	1回/年								
II-16	分煙環境整備	外回り部門	分煙環境の整備と喫煙対策指針を施設利用者に周知することを通じて、受動喫煙を防止する。	さらなる分煙環境の整備のために喫煙に関する情報を収集するとともに、喫煙マナー向上を推進する。	[1]	千葉大学の喫煙対策指針に準拠し、部局管轄内での喫煙所を明確に定め、喫煙マナーとともに周知する。	各部局担当者	通年	検討記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・喫煙所の配置の確認 ・学生、教職員への喫煙アンケート	○	—
[2]	さらなる分煙環境整備のために有益な情報を収集し、対策を検討する。	総合安全衛生管理機構、環境ISO学生委員会	通年	検討記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年								
[3]	西千葉地区構内において、禁煙に努めるとともに、喫煙をする場合には、千葉大学の喫煙対策指針に基づき、喫煙所を利用する。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年								

環境方針 III. 学生主体の環境マネジメントシステムの構築と運用

No.	項目	対象部門	環境目的 2016～ 2018年度	環境目標 2017年度	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
						17運用手順			17監視測定手順		環境目的・環境目標と達成度評価一覧			
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
III-1	学生委員会	共通事項	環境ISO学生委員会を維持・発展させる。	学生委員会の活動を学内外に向けて、積極的に情報発信していくとともに、学生委員会メンバーを増加させ、内部コミュニケーションを盛んにする。	[1]	学生委員会活動への参加を新年度ガイダンス時の研修等を通じて呼びかける。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度ガイダンスや基礎研修での学生委員会活動への参加の呼びかけ</li> <li>・前年度から約60名の新生が入加入</li> <li>・各種企画を実施</li> <li>・活動記録を掲示板・ホームページ等で広報する</li> </ul>	○	-
					[2]	学生委員会内で定期的に親睦会等の楽しい企画を実施し、内部コミュニケーションを盛んにする。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	学生委員会の活動を写真や記事で記録し、委員会を紹介するための広報媒体等によって広報する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
III-2	学生による環境活動	共通事項	学生の環境意識を高める。	環境活動を通じて学生の環境意識の向上を図る。	[1]	学生主催のイベントを支援し、学生の環境意識を向上させる。	環境ISO学生委員会	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に向けて環境活動の場を提供</li> <li>・大学祭実行委員会や他団体との共同による大学祭環境対策の実施</li> </ul>	○	-
					[2]	学生が行う自主的な環境活動の促進を検討する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	大学祭の環境対策の継続と発展を図る。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

環境方針 IV. 地域社会に開かれた形での環境マネジメントシステムの実施

No.	項目	対象部門	環境目的 2016～ 2018年度	環境目標 2017年度	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
						17運用手順			17監視測定手順		環境目的・環境目標と達成度評価一覧			
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
IV-1	地域連携・地域参加	共通事項	地域社会の主体的な参加を得つつ、地域社会との交流を盛んにし、千葉大学環境ISOを広めていく。	地域社会の意見を反映させるとともに、地域社会に積極的に参加し、対外的に広報活動をする。	[1]	地区環境ISO実行委員会に、地域代表委員を置く。	環境ISO学生委員会	通年	地区環境ISO実行委員名簿によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西千葉地区環境ISO実行委員会での地域代表の参加</li> <li>・環境報告書に関する意見交換会の開催</li> <li>・「いそちゃんだより」の発行</li> <li>・環境ISO学生委員会による学外環境イベントへの出展</li> <li>・地域住民が参加する学内イベントの実施</li> <li>・他大学や企業への広報活動</li> </ul>	○	-
					[2]	千葉大学の環境・エネルギーマネジメントシステムについて地域住民の意見を得る。	環境ISO学生委員会	1回/年	議事録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	千葉大学内での環境活動において地域住民の参加を促す。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[4]	地域社会のイベントに積極的に参加し広報活動を行うことで、環境活動を円滑に行える関係を形成する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
IV-2	情報公開	共通事項	学内外へ情報公開を行う。	千葉大学の環境への取り組みについて学内外に情報発信を行う。	[1]	キャンパスにおける環境マネジメントシステムへの取り組みや環境情報をホームページ等に掲載し、学内外に発信する。	環境ISO学生委員会	通年	ホームページ等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉大学のEMSの取り組みに関して大学Webサイトに掲載</li> <li>・環境報告書を発行、公表</li> <li>・附属学校における取り組みをまとめた「環境だより」を公表</li> </ul>	○	-
					[2]	当年度の環境報告書を発行する。	環境ISO学生委員会	8月	環境報告書によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	附属学校における取り組み等を紹介した「環境だより」を附属学校に配布し、ホームページで公表する。	環境ISO学生委員会	1回/半年	掲示物・ホームページ及び配布状況によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			
					[4]	千葉大学の環境ISO活動について全国の大学・企業等に向けて広報活動を行う。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
IV-3	国際化対応	共通事項	国際的な情報発信を行うとともに留学生との交流を強化し、環境ISO活動に関する国際的な相互理解をさらに深める。	環境に関する国際的な情報発信を行い、留学生との交流を通じて相互に環境意識の向上を図る。	[1]	通常環境ISO活動において、留学生に配慮した形式でも実施する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の環境系会議等での発表や受賞</li> <li>・留学生を対象に英語による基礎研修を実施</li> <li>・基礎研修や委員会紹介パンフレットの英訳</li> <li>・学内で留学生と交流するイベントを開催</li> </ul>	○	-
					[2]	留学生との交流を通じ、環境意識向上のための活動を実施する。	環境ISO学生委員会、国際教育センター、留学生課	通年	実施記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	環境に関する国際的な情報発信を行う。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

環境方針 V・国立大学の中での全国トップ水準のエネルギー効率の維持、改善

No.	項目	対象部門	環境目的		実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度	項番	17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
V-1	エネルギー使用量削減・温室効果ガス発生抑制	共通事項	エネルギー使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	エネルギー使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[1]	施設新設・増設・改修・更新時には高効率機器の導入に努める。	施設環境部	施設改修時	設備機器表等によって確認する。	施設環境部	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>総エネルギー投入量（前年度比100.6%）</li> <li>電気使用量（前年度比100.3%）</li> <li>都市ガス使用量（前年度比101.8%）</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>工学部・理学部等外部資金獲得に伴う研究活動の増加のため</li> </ul>
					[2]	講義室の空調機器の定期清掃を行う。	施設環境部	1回/夏期・冬期	実施記録によって確認する。	施設環境部	1回/夏期・冬期			
					[3]	研究室の空調機器の清掃を促進する方法を検討し、実施する。	環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[4]	省エネルギーを呼びかけるためのイベントを実施する。	環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[5]	省エネリーダー会議を開催し、エネルギー使用量削減に役立つ情報を、構成員に発信する。	施設環境部	3回以上/年	議事録・会議参加者名簿等によって確認する。	施設環境部	1回/半年			
V-1	エネルギー使用量削減・温室効果ガス発生抑制	共通事項	エネルギー使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	エネルギー使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[6]	大学構内でのエネルギー使用量の周知に努める。	環境ISO学生委員会	通年	掲示物等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネリーダー会議の開催</li> <li>エコサポート制度を継続するとともに、エネルギー多消費型機器の使用状況を把握</li> <li>省エネイベントの実施</li> <li>省エネ啓発ポスター・ステッカーを掲示</li> <li>エアコンフィルター清掃</li> </ul>	○	-
					[7]	照明の消し忘れの防止、空調機器の適切な使用、上下2階までの階段利用、夏期はクールビズ、冬期はウォームビズを促す方策を行う。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[8]	大学ホームページにおける電力使用見える化の情報による電力状況の把握、照明の消し忘れの防止、空調機器の適切な使用、上下2階までの階段利用の促進、夏期のクールビズ、冬期のウォームビズという手段を用いて電力使用の抑制に努める。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[9]	エネルギー使用量の内訳を把握し、削減方法を検討する。	施設環境部	通年	実施記録によって確認する。	施設環境部	1回/年			

改廃履歴

制定(改廃)年月日	起案者	内容
2004年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会行動計画班)	新規制定
2004年10月14日	倉阪秀史	改廃
2004年12月13日	倉阪秀史	改廃
2005年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2006年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2007年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2008年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2009年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2010年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2011年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2012年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2013年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 佐藤 洵、廣岡安雲)	改廃
2014年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 折原 亘、高畑光里)	改廃
2015年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 小室芳樹、三木 茜)	改廃
2016年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 西山友啓、巖見りおん)	改廃
2017年 4月 1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 新井春香、石塚郁海、森田航平)	改廃

## 2017年度千葉大学亥鼻キャンパスにおける環境目的・環境目標・実施計画

### 環境方針 I. 総合大学としての特長を活かした環境教育・研究

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
I-1	環境教育・学習・研究	一般教育・研究部門/実験系教育・研究部門	大学・大学院における環境教育・研究を推進し、学内における環境関係の教育・研究を充実させる。	環境に係る教育・研究機会を維持し、増加させ、また学内での環境教育の状況について、情報公開を行う。	[1]	環境に関連するカリキュラムを維持し、増加させる。	各学部・大学院、普通教育担当教員	カリキュラム作成時	環境関連科目一覧表によって確認する。	記録—各学部・大学院、確認—環境ISO事務局	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境関連科目：20科目(前年度比+1)</li> <li>・環境関連書籍：55冊(前年度比0)</li> <li>・環境関連科目の情報をHPで公開</li> </ul>	○	—
					[2]	附属図書館亥鼻分館における環境に関連する書籍等の数を維持し、増加させる。	附属図書館亥鼻分館	通年	環境関連図書一覧表によって確認する。	記録—附属図書館、確認—環境ISO事務局	1回/年			
					[3]	学内での環境に関連するカリキュラムの維持を確認し、ホームページ・SNS等の利用により積極的に情報公開を行う。	環境ISO学生委員会	通年	ホームページ・SNS等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

### 環境方針 II. 環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-1	用紙類使用量削減	共通事項	用紙類の使用量を今後3年間にわたり年平均で1%以上削減する。	用紙類の使用量を前年度比で1%以上削減する。	[1]	裏紙の使用、両面印刷等の利用、電子媒体の利用及び使用済み封筒の再利用を促し、用紙類の削減に努める。	各部署総務担当者、各構成員、準構成員	通年	アンケート等によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	・紙類購入量(A4換算前年度比78.6%)	○	—
II-2	用紙類再利用	共通事項	用紙類の適切な再利用・分別・回収を定着させる。	用紙類の再利用・分別・回収システムをキャンパス全体に浸透させる。	[1]	ミックス古紙回収システムの正しい分別の下での利用を促すことにより紙ごみ回収率の向上に努める。	環境ISO事務局	通年	回収記録等によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミックス古紙回収システムの継続実施</li> <li>・裏紙利用促進ポスター掲示の継続</li> <li>・リサイクルボックス等の継続設置</li> </ul>	○	—
					[2]	リサイクルボックス等を学内に設置するとともに、ポスターを掲示し、用紙の再使用・リサイクルを推進する。	共用コピー・印刷室—各部署総務担当者、研究室・事務室—各構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
					[3]	不要になった用紙のうち、裏紙としての使用が不可能なものについては指定の回収場所に持参する。	各部署等総務担当者、各研究室等	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
II-3	水使用量削減	共通事項	水の使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	水の使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[1]	施設新設・増設・改修時の節水型設備の導入に努める。	施設環境部	施設改修時	改修記録等によって確認する。	施設環境部	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水資源投入量(前年度比95.9%)</li> </ul>	○	—
					[2]	漏水等の早期発見とその処置の迅速化に努める。	施設環境部	通年	調査記録によって確認する。	施設環境部	1回/半年			
					[3]	トイレ・水栓の維持・管理に努める。	施設環境部	1回/年	実施記録によって確認する。	施設環境部	1回/年			
					[4]	節水に努める。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水型設備の導入の推進</li> <li>・節水を促すステッカーを構内に掲示</li> <li>・漏水に対する早期発見と処置の実施</li> </ul>	○	—
					[5]	ステッカー等によって節水を促進する。	環境ISO事務局	通年	ステッカーの貼付状況等によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
					[6]	定期的な水の消費量を把握し、掲示板・ホームページ等により構成員・準構成員への周知を図る。	環境ISO事務局	通年	掲示物等によって確認する。	環境ISO事務局	1回/半年			

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-4	廃棄物抑制	共通事項	廃棄物分別を徹底し、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の促進を図る。	3R(リデュース・リユース・リサイクル)の促進を図るとともに、一般廃棄物排出量を前年度比で1%以上削減し、及び産業廃棄物の排出量を削減することに努める。(リサイクル分を除く。また、施設の改修整備に伴うものは除外して比較する。)	[1]	キャンパス利用者に分別BOXや廃棄物集積所における分別を促す。	環境ISO事務局、各部局総務担当者	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジ袋有料制度の継続実施</li> <li>・分別表示ポスターを構内に掲示</li> <li>・ごみ分別ステッカー貼付の継続</li> <li>・大学祭での分別と発生抑制の促進</li> </ul>	○	-
					[2]	ごみの排出抑制及びごみと資源等の分別に努める。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
II-5	グリーン調達	共通事項	環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を大学の物品購入において推進する。	大学の物品購入において千葉大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。	[1]	グリーン調達方針に基づき、グリーン購入基準適合製品を選択する。	教職員(発注者)	通年	連絡された品目等の記録によって確認する。	記録—契約課、確認—環境ISO事務局	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン調達方針の学内への周知を継続</li> </ul>	○	-
					[2]	グリーン購入基準適合製品以外の製品を選択した場合には、その品目・数量を契約課に連絡するという手続きを意識する。	教職員(発注者)	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
II-6	化学物質管理	実験系教育・研究部門	化学物質の適正な管理を行う。	化学物質の適正管理を徹底する。	[1]	化学物質の適正管理に関する啓発活動を実施する。	総合安全衛生管理機構	通年	実施状況によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質管理システム(CUCRIS)の利用</li> <li>・ホームページなどによる有害廃棄物処理手順の周知</li> <li>・基礎研修などにおける化学物質の適正管理方法の周知</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入室のための番号キーの変更、毒劇物保管庫の鍵の保管場所の配慮など毒劇物盗難対策が徹底されていないため。</li> </ul>
					[2]	千葉大学化学物質管理システム(CUCRIS)の利用等によって化学物質の適正な管理を行う。	化学物質取り扱いユニット	通年	運用状況によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
					[3]	新たに不要薬品が発生した場合、不要薬品類の安全管理を徹底し、速やかに廃棄する。	化学物質取り扱いユニット	通年	内部監査結果によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			



No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
Ⅱ-7	廃水浄化	食堂部門	廃水の浄化を促進する。	廃水の浄化のためのシステムを運用する。	[1]	グリストラップの設置を継続し、定期的に洗浄する。	食堂部門ユニット環境責任者	グリストラップの種類に応じて食堂部門ユニット環境責任者が定める頻度	洗浄記録によって確認する。	記録—食堂部門ユニット環境責任者、確認—環境ISO事務局	1回/年	・グリストラップの継続設置・数日ごとの定期的洗浄・厨房機器の油分拭き取りの励行	○	—
					[2]	ペーパータオル等での厨房機器の油分拭き取りを励行する。	食堂部門構成員	通年	インタビューによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
Ⅱ-8	生ごみ処理	食堂部門	生ごみの排出量を抑制する。	生ごみの発生量を把握し、減量を努める。	[1]	生ごみの発生量を把握し、作り置きや食べ残しを最小限にとどめる等の措置により食品廃棄の抑制を進める。	食堂部門ユニット環境責任者	1回以上/月、通年	インタビューによって確認する。	記録—食堂部門ユニット環境責任者、確認—環境ISO事務局	1回/年	・生ごみ発生量を記録・削減方法の検討 ・食堂部門における小盛りメニューの販売・作り置きの抑制・ビュッフェ形式により食べ残しを削減	○	—
Ⅱ-9	廃油抑制	食堂部門	廃油の発生抑制・適正処理を確保する。	廃油の発生抑制・適正処理のためのシステムを構築し運用する。	[1]	廃油の発生抑制の取り組みを促進する。	食堂部門ユニット環境責任者	通年	インタビューによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	・廃油の発生抑制(ろ過機能付きフライヤーの導入・清掃等) ・廃油適正処理のためのシステム運用(廃食用油専用マニフェスト等) ・亥鼻地区において自主検査による2件の下水排除基準超過が起きた。	×	・グリストラップに相当する設備の機能が不十分であったため。
					[2]	廃油を適正に保管し、適切な認可業者へ処理処分を依頼する。	食堂部門ユニット環境責任者	食堂部門ユニット環境責任者が定める頻度	依頼量・依頼先の記録によって確認する。	記録—食堂部門ユニット環境責任者、確認—環境ISO事務局	1回/年			
Ⅱ-10	グリーン購入	物品販売部門	グリーン購入製品の普及を進める。	グリーン購入基準適合製品の品揃えを充実させ、その情報提供を進めて積極的な選択を促す。	[1]	千葉大学のグリーン調達方針とグリーン購入基準適合製品の内容をユニット構成員に伝える。	物品販売部門ユニット環境責任者	第1四半期	インタビューによって確認する。	記録—物品販売部門ユニット環境責任者、確認—環境ISO事務局	1回/年	・グリーン購入基準適合製品の品揃えの充実 ・グリーン購入基準適合製品の表示の明確化・情報発信 ・グリーン購入基準適合製品の購入促進	○	—
					[2]	グリーン購入基準適合製品の品揃えを充実させる。	物品販売部門ユニット環境責任者	通年	インタビュー等によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
					[3]	グリーン購入基準適合製品かどうかを購入者に伝え、その購入を促進する。	物品販売部門ユニット環境責任者	通年	実施記録によって確認する。	記録—物品販売部門ユニット環境責任者、確認—環境ISO事務局	1回/年			
Ⅱ-11	物品販売における3R	物品販売部門	物品販売に伴う廃棄物の削減・循環利用を定着させる。	物品販売に伴う廃棄物の削減・循環利用を促進する。	[1]	充電電池・インクカートリッジ・トナー等の回収システムを維持し、その回収・循環利用を促進する。	物品販売部門ユニット環境責任者	通年	実施記録・インタビューによって確認する。	記録—物品販売部門ユニット環境責任者、確認—インタビュー—環境ISO事務局	1回/年	・生協におけるレジ袋有料化制度の継続 ・使用済みインクカートリッジ等の回収	○	—
					[2]	レジ袋有料化を継続し、レジ袋の利用状況、れじぶー基金の収支を周知する。	物品販売部門ユニット環境責任者、環境ISO事務局	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
Ⅱ-12	構内環境の維持	外回り部門	構内の美化・清掃を進め、構内環境を適正に維持する。	定期的に構内の美化・清掃を行う。	[1]	教職員と学生による定期的な構内の美化・清掃を企画する。	各部局総務担当者	2回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	・定期的な構内美化・清掃を実施 ・放置自転車抑制の方法を検討、ポスター掲示	○	-
					[2]	放置自転車を抑制するためのポスターを掲示する。	環境ISO事務局	通年	掲示物によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
					[3]	放置自転車の抑制のための方策を検討し、実施する。	環境ISO事務局	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
Ⅱ-13	分煙環境整備	外回り部門	分煙環境の整備と施設利用者への周知を通じて受動喫煙を防止する。また、歩行喫煙への対策を通じてポイ捨てを防止し、景観を向上させる。	分煙環境の整備及び喫煙マナー向上の取り組みを推進する。	[1]	千葉大学の喫煙対策指針に準拠し、部局管轄内での喫煙所を明確に定め、喫煙マナーとともに周知する。	各部局担当者	通年	掲示物・アンケートによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	・喫煙所を定め、喫煙マナーとともに周知 ・HP等による喫煙場所周知の徹底	○	-
					[2]	亥鼻地区構内において、禁煙に努めるとともに、喫煙をする場合には、千葉大学の喫煙対策指針に基づき、喫煙所を利用する。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			

環境方針 Ⅲ. 学生主体の環境マネジメントシステムの構築と運用

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
Ⅲ-1	学生委員会	共通事項	環境ISO学生委員会を維持・発展させる。	学生委員会メンバーを増加させ、内部コミュニケーションを盛んにする。	[1]	学生委員会活動への参加を新年度ガイダンス時の研修等を通じて呼びかける。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・新年度ガイダンスを通じて学生委員会活動への参加の呼びかけ ・学生委員会内で定期的に企画を実施 ・イベントで委員会活動の発信	○	-
					[2]	学生委員会内で定期的に親睦会等の楽しい企画を実施し、内部コミュニケーションを盛んにする。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	イベントを通じて学生委員会の活動をキャンパスの学生に発信する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
Ⅲ-2	学生による環境活動	共通事項	学生の環境意識を高める。	環境活動を通じて学生の環境意識の向上を図る。	[1]	大学祭での環境対策の継続と発展を図る。	環境ISO学生委員会、亥鼻祭実行委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	・亥鼻祭での環境対策の継続と発展	○	-

環境方針 IV. 地域社会に開かれた形での環境マネジメントシステムの実施

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)			(千葉大学環境報告書2018記載)					
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
IV-1	地域連携・地域参加	共通事項	地域社会の主体的な参加を得る。	地域社会との連携を進める。	[1]	千葉市長による推薦があった者を地区環境ISO実行委員会の委員として参画を求める。	環境ISO事務局	通年	地区環境ISO実行委員会委員名簿によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	・亥鼻地区環境ISO実行委員への千葉市役所職員の参加	○	—
IV-2	情報公開	共通事項	学内外へ情報公開を行う。	キャンパスにおける環境への取り組みについて、学内外に情報発信を行う。	[1]	キャンパスにおける環境マネジメントシステムへの取り組みや環境情報をホームページ・SNS等に掲載し、学内外に発信する。	環境ISO事務局	通年	ホームページ・SNS等によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	・環境報告書を公表	○	—
IV-3	国際化対応	共通事項	国際的な情報発信を行うとともに留学生との交流を強化し、環境ISO活動に関する国際的な相互理解をさらに深める。	留学生に対して本学の環境ISO活動に関する情報を発信する。	[1]	通常の環境ISO活動において、留学生に配慮した形式でも実施する。	環境ISO事務局	通年	実施記録等によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	・基礎研修資料の英訳	○	—

環境方針 V. 国立大学の中での全国トップ水準のエネルギー効率の維持、改善

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)			(千葉大学環境報告書2018記載)					
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
V-1	エネルギー使用量削減・温室効果ガス発生抑制	共通事項	エネルギー使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	エネルギー使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[1]	施設新設・増設・改修・更新時には高効率機器の導入に努める。	施設環境部	施設改修時	設備機器表等によって確認する。	施設環境部	1回/年	・総エネルギー投入量（前年度比101.2%） ・電気使用量（前年度比101.2%） ・都市ガス使用量（前年度比101.6%）	×	・医学研究院の稼働増（教職員数の増加（約7%増）及び外部資金獲得に伴う研究活動の増加のため
					[2]	講義室の空調機器の定期清掃を行う。	施設環境部	1回/夏期・冬期	実施記録によって確認する。	施設環境部	1回/夏期・冬期			
					[3]	大学構内でのエネルギー使用等に関する情報を、適宜構成員及び準構成員に発信する。	環境ISO事務局	1回/月	実施記録によって確認する。	環境ISO事務局	1回/半年			
					[4]	大学ホームページにおける電力使用見える化の情報により電力使用状況を把握、照明の消し忘れの防止、空調機器の適切な使用、上下2階までの階段利用の促進、夏期のクールビズ、冬期のウォームビズという手段を用いて電力使用の抑制に努める。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)			(千葉大学環境報告書2018記載)					
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
V-1	エネルギー使用量削減・温室効果ガス発生抑制	共通事項	エネルギー使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	エネルギー使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[5]	照明の消し忘れの防止、空調機器の適切な使用、上下2階までの階段利用、夏期はクールビズ、冬はウォームビズを促す方策を行う。	環境ISO事務局	通年	ステッカーの貼付状況によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー会議の開催</li> <li>・エコサポート制度を継続するとともに、エネルギー多消費型機器の使用状況を把握</li> <li>・省エネイベントの実施</li> <li>・省エネ啓発ポスター・ステッカーを掲示</li> <li>・エアコンフィルター清掃</li> </ul>	○	-
					[6]	省エネルギーを呼びかけるためのイベントを実施する。	環境ISO事務局	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			
					[7]	エネルギー使用量の内訳を把握し、削減方法を検討する。	施設環境部	1回/年	実施記録によって確認する。	施設環境部	1回/年			
					[8]	温暖化防止のための対策を推進する。	環境ISO事務局	通年	検討記録等によって確認する。	環境ISO事務局	1回/年			

改廃履歴

制定(改廃)年月日	起案者	内容
2004年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会行動計画班)	新規制定
2004年10月14日	倉阪秀史	改廃
2004年12月13日	倉阪秀史	改廃
2005年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2006年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2007年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2008年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2009年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2010年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2011年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2012年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会)	改廃
2013年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 佐藤 洵、廣岡安雲)	改廃
2014年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 折原 亘、高畑光里)	改廃
2015年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 小室芳樹、三木 茜)	改廃
2016年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 西山友啓、巖見りおん)	改廃
2017年4月1日	倉阪秀史(原案:環境ISO学生委員会 書記 新井春香、石塚郁海、森田航平)	改廃

千葉大学松戸・柏の葉キャンパスにおける環境目的・環境目標・実施計画

Ver.14  
2017年4月1日  
<松戸地区>

環境方針

I. 総合大学としての特長を活かした環境教育・研究

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016~2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
I-1	環境教育	一般教育・研究部門 ／ 実験系教育・研究部門	大学・大学院における環境教育・学習を充実する。	環境に関する教育・学習の機会を維持し、増加させる。	[1]	環境に関するカリキュラムの割合を維持する。	各教員	カリキュラム作成時	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・環境関連科目：461科目(前年比+38) ・環境関連書籍：795冊(前年比+10) 【2017年10月時点】	○	—
					[2]	附属図書館松戸分館における環境に関する書籍等の数を維持し、増加させる。	附属図書館松戸分館	通年	一年間の購入図書によって確認する。	附属図書館松戸分館	1回/年			
I-2	環境関連研究	一般教育・研究部門 ／ 実験系教育・研究部門	大学における環境関係の研究を充実する。	環境に関する研究を推進する。	[1]	環境に関する研究を行っている研究者の割合を維持する。	各教員	通年	パンフレット等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・環境に関する研究を推進	○	—
					[2]	学内での環境関連の研究状況について、ホームページ等の利用により積極的に情報公開を行う。	各教員	通年	ホームページ等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	環境関連研究の情報を公開研究発表会等で社会に発信する。	教務委員会	随時	実施記録によって確認する。	教務委員会	1回/年			

環境方針

II. 環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016~2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-1	用紙類使用量削減	共通事項	用紙類の使用量を今後3年間にわたり年平均で1%以上削減する。	用紙類の使用量を前年度比で1%以上削減する。	[1]	裏紙の使用、両面印刷等の利用、電子媒体の利用及び使用済み封筒の再利用を促し、用紙類の削減に努める。	ユニット環境責任者	通年	アンケート等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・紙類購入量(A4版換算前年比115.5%)	×	・留学生の増加に伴う資料増加のため
II-2	用紙類再利用	共通事項	用紙類の再利用・分別・回収を定着させる。	用紙類の再利用・分別・回収をキャンパス全体に浸透させる。	[1]	古紙・裏紙の分別に努める。	構成員、準構成員	通年	分別状況によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・裏紙再利用の推進 ・古紙回収システムの推進	○	—
					[2]	リサイクルボックス等を学内に設置するとともに、ポスターを掲示し、用紙の再利用・リサイクルを推進する。	ユニット環境責任者	通年	実施状況によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	不要になった用紙のうち、裏紙としての使用が不可能なものについては指定の回収場所に持参する。	構成員、準構成員	通年	アンケート等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016~2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-3	水使用量削減	共通事項	水の使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	水の使用量を前年比で原単位1%以上削減する。	[1]	施設新設・増設・改修時の節水型設備の導入に努める。	会計(新設及び大型改修時-施設環境部)	施設改修時	改修記録等によって確認する。	会計(新設及び大型改修時-施設環境部)	1回/年	・水資源投入量(前年度比138.8%)	×	・図書館の水道管が破損及び圃場において井水の漏水の発生により増加のため
					[2]	漏水等の早期発見とその処置の迅速化に努める。	会計	通年	調査記録によって確認する。	会計	1回/年			
					[3]	トイレ・水栓の維持・管理に努める。	会計	1回/年	実施記録によって確認する。	会計	1回/年			
					[4]	節水に努める。	構成員、準構成員	通年	アンケート等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・節水型設備の導入の推進 ・節水を促すステッカーを構内に掲示 ・漏水に対する早期発見と処置の実施	○	-
					[5]	ステッカー等によって節水を促進する。	環境ISO事務局、各ユニット責任者	通年	ステッカーの貼付状況等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[6]	定期的に水の消費量を把握し、掲示板・ホームページ等により構成員・準構成員への周知を図る。	環境ISO学生委員会	通年	掲示物・ホームページ等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			
II-4	廃棄物抑制	共通事項	廃棄物分別を徹底し、廃棄物の発生抑制、3Rの促進を図る。	廃棄物の分別の徹底と発生抑制に努める。	[1]	ごみの排出抑制に努めるとともに、ごみと資源等の分別を徹底する。	構成員、準構成員	通年	アンケート・分別状況によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・一般廃棄物排出量(前年度比85.5%) ・産業廃棄物排出量(前年度比79.0%)	○	-
					[2]	一般廃棄物の排出量を把握し、掲示板・ホームページ等により構成員・準構成員への周知を図る。	環境ISO学生委員会	1回/月	掲示板・ホームページ等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	ごみの分別状況及び一般廃棄物の排出量を構成員・準構成員に対して周知する。	環境ISO学生委員会	1回/月	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[4]	学内における3Rシステムの発展のための取り組みを実施する。	環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・リ・リパック回収促進活動 ・使用済みインクカートリッジ回収促進 ・レジ袋有料制度の継続実施 ・分別ポスターなどの掲示による分別促進 ・大学祭での分別と発生抑制の促進 ・一般廃棄物排出量の学内掲示による啓発	○	-
					[5]	大学祭において廃棄物の分別と発生抑制を促進する。	戸定祭実行委員会、環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/後期			
II-5	グリーン調達	共通事項	環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を大学の物品購入において推進する。	大学の物品購入において千葉大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。	[1]	グリーン調達方針に基づき、グリーン購入基準適合製品を選択する。	教職員(発注者)	通年	連絡された品目等の記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・グリーン調達方針の学内への周知を継続	○	-
					[2]	グリーン購入基準適合製品以外の製品を選択した場合には、その品目・数量を契約課に連絡するという手続きを意識する。	教職員(発注者)	第一四半期	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度	項番	17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-6	化学物質管理	実験系教育・研究部門	化学物質の適正な管理を行う。	化学物質の適正管理を徹底する。	[1]	ポスター等による適正管理の啓発活動を実施する。	安全衛生委員会	通年	掲示物の貼付状況等によって確認する。	安全衛生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学物質管理システム(CUCRIS)の利用</li> <li>ホームページなどによる有害廃棄物処理手順の周知</li> <li>基礎研修などにおける化学物質の適正管理方法の周知</li> <li>&lt;2017年7月に劇物に指定されている硝酸銀(約400g)が医学部棟から紛失(7月20日記者発表)&gt;</li> <li>(紛失事件を受けて)部局の化学物質管理責任者に、盗難・紛失防止策の徹底を要請</li> <li>9月の内部監査においても化学物質を重点的に監査</li> <li>&lt;2017年12月の外部審査において工学部でクロロホルム(劇物)の使用量記録が7月以降なされていないことが発覚し、軽微な不適合の指摘を受ける。&gt;</li> <li>巡回検査、抜き打ち検査を行うなど毒劇物の管理対策を強化</li> </ul>	○	-
					[2]	千葉大学化学物質管理システム(CUCRIS)の説明会を開催する。	安全衛生委員会	1回/年	開催案内・参加者名簿等々の記録によって確認する。	安全衛生委員会	1回/年			
					[3]	千葉大学化学物質管理システム(CUCRIS)の利用等によって化学物質の適正な管理を行う。	化学物質取り扱いユニット	通年	巡視や報告の記録によって確認する。	安全衛生委員会	1回/年			
					[4]	未登録薬品のCUCRIS登録を徹底させ、安全管理・処理を計画的に実施する。	化学物質取り扱いユニット	通年	巡視や報告の記録によって確認する。	安全衛生委員会	1回/年			
II-7	排水管理	共通事項	排水中の有害物質の濃度を定常的に低い値に下げる。	下水道条例において定める排除基準を100%確実に遵守するための体制を整える(特に窒素、ノルマルヘキサン抽出物質、水銀等)。	[1]	定期的な検査を実施し、原因究明とともに対策を講じる。	安全衛生委員会	通年	検査等の結果によって確認する。	安全衛生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月下水濃度量検査を実施</li> <li>&lt;窒素について自主検査による下水排除基準の町家があった&gt;</li> </ul>	×	・下水に流入する窒素量を十分に削減できなかったため
II-8	廃水浄化	食堂部門	廃水の浄化を促進する。	廃水の浄化のためのシステムを運用する。	[1]	グリストラップの設置を継続し、定期的に洗浄する。	生協	ユニット環境責任者が定める頻度	洗浄記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>食堂における油分対策を実施(新聞紙やペーパータオルで拭き取り)</li> <li>グリストラップの設置継続・定期的洗浄</li> </ul>	○	-
					[2]	ペーパータオル等での厨房機器の油分拭き取りを励行する。	生協	通年	インタビューによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-9	廃油抑制	食堂部門	廃油の発生抑制・適正処理を確保する。	廃油の発生抑制・適正処理のためのシステムを構築し運用する。	[1]	廃油の発生抑制の取り組みを促進する。	生協	第一四半期	実施記録・インタビューによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃油の発生抑制</li> <li>廃油適正処理のためのシステムの運用</li> <li>食用油(ラー油等)も廃油缶に入れて流さないようにしている</li> </ul>	○	-
					[2]	廃油を適正に保管し、適切な認可業者へ処理処分を依頼する。	生協	通年	記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-10	グリーン購入	物品販売部門	グリーン購入の取り組みを促進する。	グリーン購入基準適合製品の品揃えを充実させ、その情報提供を進めて積極的な選択を促進する。	[1]	千葉大学のグリーン調達方針とグリーン購入基準適合製品の内容をユニット構成員に伝える。	生協	第1四半期	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン購入基準適合製品の品揃えの充実</li> <li>グリーン購入基準適合製品の表示の明確化・情報発信</li> <li>グリーン購入基準適合製品の購入促進</li> </ul>	○	-
					[2]	グリーン購入基準適合製品の品揃えを充実させる。	生協、環境ISO学生委員会	通年	インタビュー等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	グリーン購入基準適合製品かどうかを購入者に伝え、その購入を促進する。	生協、環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順		環境目的・環境目標と達成度評価一覧			
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-11	物品販売における3R	物品販売部門	物品販売に伴う廃棄物の削減・循環利用を促進する。	物品販売に伴う廃棄物の削減・循環利用のシステムを維持・促進する。	[1]	リ・リパックの回収率を前年度に比較して向上させる方法を検討する。	生協、環境ISO学生委員会	通年	検討記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年	・生協におけるレジ袋有料化制度の継続 ・リ・リパックによる弁当販売の継続 ・使用済みインクカートリッジ等の回収	○	—
					[2]	インクカートリッジ・トナーの回収システムを維持し、その回収・循環利用を促進する。	生協、環境ISO学生委員会	通年	実施記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	レジ袋有料化に関する事項の周知を掲示板・ホームページ等で積極的におこない、購入者の理解を深める。	生協、環境ISO学生委員会	通年	掲示物等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-12	環境関連書籍	物品販売部門	環境関連書籍を充実させる。	環境関連書籍の情報提供を進める。	[1]	環境に関連する書籍等の情報を提供する。	生協、環境ISO学生委員会	通年	実施記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・店頭で環境関連書籍の取り扱い	○	—
II-13	落ち葉・剪定枝処理	外回り部門	落ち葉・放置剪定枝の適切な処理システムを運用する。	排出された落ち葉・剪定枝を活用した再資源化や再利用に関するプロジェクトを継承する。	[1]	排出された落ち葉・剪定枝の適切な処理システムを継承する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・落ち葉堆肥化プロジェクト継承の体制整備	○	—
II-14	緑の管理	外回り部門	キャンパスの緑の適正な管理システムを運用する。	キャンパスの緑の管理システムの継続的な改善に努める。	[1]	緑の管理状況を把握するための適正なシステムについて検討し、実施する。	園場・温室等利用/環境緑化委員会、環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	園場・温室等利用/環境緑化委員会、環境ISO学生委員会	1回/半年	・構内における緑の効果的な活用 ・構内における緑地の管理状態の確認	○	—
					[2]	定期的な緑の管理を行う。	園場・温室等利用/環境緑化委員会、ユニット環境責任者	通年	実施記録によって確認する。	園場・温室等利用/環境緑化委員会、ユニット環境責任者	1回/半年			
					[3]	学生や教職員の主体的な緑化活動を把握し、促進する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	園場・温室等利用/環境緑化委員会、環境ISO学生委員会	1回/年			
					[4]	教職員と学生による定期的な構内の美化・清掃を企画する。	園場・温室等利用/環境緑化委員会、ユニット環境責任者	1回/半年	実施記録によって確認する。	園場・温室等利用/環境緑化委員会、ユニット環境責任者	1回/半年			
II-15	自転車管理	外回り部門	自転車管理体制の維持・発展を通じて駐輪状況を改善する。	放置自転車の発生を抑制する取り組みを推進する。また、自転車管理体制の改良を推進する。	[1]	統一管理基準に基づいた自転車利用を構成員・準構成員に周知し、適切な利用を促す。	キャンパス問題検討委員会、環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・自転車ステッカーの交付 ・駐輪場案内の掲示 ・放置自転車の撤去 ・自転車回収イベントの実施	○	—
					[2]	自転車の利用者登録を行い、その際に当年度のステッカーを交付し、その貼付率向上に努める。	事務担当者、環境ISO学生委員会	通年	ステッカー発行枚数と利用者情報等の記録、駐輪状況調査実施記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			
					[3]	統一管理基準に基づき放置自転車の撤去を行う。	キャンパス問題検討委員会、環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[4]	定期的な駐輪状況調査によって現状を把握し、駐輪状況の改善策を検討・実施するとともに、その効果を確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			
					[5]	自転車の回収・譲渡システムの構築・運用を検討し、システムの展開に努める。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			



No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016~2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-16	分煙環境整備	共通事項/外回り部門	分煙環境の整備を行なう。また、受動喫煙を防止する。	さらなる分煙環境の整備と施設利用者への周知を通じて受動喫煙を防止する。また、喫煙マナー向上を推進する。	[1]	千葉大学の喫煙対策指針に準拠した喫煙マナーと喫煙所の周知を図る。	安全衛生委員会、環境ISO学生委員会	通年	周知の記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・掲示板による喫煙マナーや喫煙所の周知 ・ポスターの設置による喫煙場所周知の徹底	△	・喫煙マナー、喫煙所の周知は出来たが、周知の効果が見られず、十分ではなかったため。
					[2]	さらなる分煙環境整備のために有益な情報を収集し、対策を検討する。	安全衛生委員会、環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	松戸地区構内において、禁煙に努めるとともに、喫煙をする場合には、千葉大学の喫煙対策指針に基づき、喫煙所を利用する。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

環境方針 III. 学生主体の環境マネジメントシステムの構築と運用

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)					(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016~2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
III-1	学生会活動	共通事項	環境ISO学生委員会を維持・発展させる。	学生会委員会のメンバーの増加、知識向上、内部コミュニケーションの強化を図る。	[1]	学生会委員会活動への参加を新年度ガイダンス時の研修等を通じて呼びかける。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・新年度ガイダンスを通じて学生会委員会への参加の呼びかけ ・スポーツ大会など学生会委員会内のイベントを開催	○	-
					[2]	学生会委員会内で定期的に親睦会等の楽しい企画を実施し、内部コミュニケーションを盛んにする。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			
					[3]	学生会委員会の活動を写真や記事で記録し、委員会を紹介するための広報媒体等によって広報する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[4]	環境・エネルギーマネジメントシステムの構築と運用に必要な知識の向上を図るため、勉強会を行う。	環境ISO学生委員会	1回以上/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			
III-2	学生による環境活動	共通事項	学生による自主的な環境活動を促進させる。	自主的な環境活動を行っている学生の情報を収集し、発信する。またそれを学生間で共有する。	[1]	自主的な環境活動を行っている学生が情報を発信できるような機会を設ける。	環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・大学祭環境対策などによる自主的な環境活動 ・環境系サークルの交流会の実施	○	-

環境方針

IV. 地域社会に開かれた形での環境マネジメントシステムの実施

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)			17監視測定手順			(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016~2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
IV-1	地域連携・地域参加	共通事項	地域交流を盛んにする。	地域社会と共に環境活動を行う。	[1]	地域社会に向けた環境教育の企画を実施する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・コミュニティガーデン活動を実施 ・戸定祭にて地域住民と連携し環境教育企画を実施	○	-
					[2]	地域社会と協力し、緑化活動を行う。	環境ISO学生委員会	通年	活動報告書によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			
					[3]	地域社会のイベントに積極的に参加し、地域との環境活動を円滑にする場の形成に努める。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[4]	環境改善活動を通じて地域に貢献し、住民間ならびに学生との交流を促す。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
IV-2	情報公開	共通事項	学内外へ情報公開を行う。	キャンパスにおける環境への取り組みについて学内外に情報発信を行う。	[1]	キャンパスにおける環境・エネルギーマネジメントシステムへの取り組みや環境情報をホームページ等に掲載し、学内外に発信する。	環境ISO学生委員会	通年	環境報告書等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年	・環境報告書を公表 ・活動報告書の作成	○	-
					[2]	当年度の環境報告書の原案の作成補助をする。	環境ISO学生委員会	第1四半期	環境報告書によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	当年度の「松戸・柏の葉地区学生委員会活動報告書」を作成する。	環境ISO学生委員会	1回/年	活動報告書によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
IV-3	国際化対応	共通事項	環境ISO活動について国際的な情報交換を行うとともに、留学生の環境活動推進を図る。	環境に関する国際的な情報発信を行い、留学生との交流を通じて相互に環境意識の向上を図る。	[1]	留学生に対して、キャンパスの環境ISO活動に関する情報を発信する。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・留学生ガイダンス時における基礎研修の実施	○	-

環境方針

V. 国立大学の中での全国トップ水準のエネルギー効率の維持、改善

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)			17監視測定手順			(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016~2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
V-1	エネルギー使用量削減・温室効果ガス発生抑制	共通事項	エネルギー使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	エネルギー使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[1]	施設新設・増設・改修・更新時には高効率機器の導入に努める。	会計係(新設及び大型改修時-施設環境部)	施設改修時	設備機器表等によって確認する。	会計係(新設及び大型改修時-施設環境部)	1回/年	・総エネルギー投入量(前年度比96.6%) ・電気使用量(前年度比95.5%) ・都市ガス使用量(前年度比96.9%)	○	-
					[2]	講義室の空調機器の定期清掃を行う。	会計係	1回/夏期・冬期	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/夏期・冬期			
					[3]	事務室・研究室の空調機器の定期清掃を行う。	ユニット環境責任者	1回/夏期・冬期	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/夏期・冬期			
					[4]	省エネルギーを呼びかけるためのイベントを実施する。	環境ISO学生委員会	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016~2018年度	2017年度	項番	17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
V-1	エネルギー使用量削減・温室効果ガス発生抑制	共通事項	エネルギー使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	エネルギー使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[5]	毎月のエネルギー使用量を把握し、掲示板等を用いて構成員・準構成員への周知を図る。	環境ISO学生委員会	通年	掲示物によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネリーダー会議の開催</li> <li>・エコサポート制度を継続するとともに、エネルギー多消費型機器の使用状況を把握</li> <li>・省エネイベントの実施</li> <li>・省エネ啓発ポスター・ステッカーを掲示</li> <li>・エアコンフィルター清掃</li> </ul>	○	-
					[6]	照明の消し忘れの防止、空調機器の適切な使用、上下2階までの階段利用、夏季はクールビズ、冬季はウォームビズを促す方策を行う。	環境ISO学生委員会、各ユニット責任者	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[7]	大学ホームページにおける電力使用見える化の情報により電力状況の把握、照明の消し忘れの防止、空調機器の適切な使用、上下2階までの階段利用、夏季はクールビズ、冬季はウォームビズという手段を用いて電力使用の抑制に努める。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[8]	エネルギー使用量の内訳を把握し、削減方法を検討する。	会計係	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[9]	温暖化防止のための対策を検討する。	環境ISO学生委員会	通年	検討記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

改廃履歴

制定(改廃)年月日	起案者	内容
2004年 5月31日	実行委員会	新規制定
2006年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	18年度目標設定・部分的微修正
2007年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	19年度目標設定・部分的微修正
2008年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	20年度目標設定・部分的微修正
2009年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	21年度目標設定・部分的微修正
2010年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	22年度目標設定・部分的微修正
2011年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	23年度目標設定・部分的微修正
2012年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	24年度目標設定・部分的微修正
2013年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	25年度目標設定・部分的微修正
2014年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会、環境ISO学生委員会書記 梅谷昌希、大森彩	26年度目標設定・部分的微修正
2015年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会、環境ISO学生委員会書記 桐澤 凜、藤井かな	27年度目標設定・部分的微修正
2016年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会、環境ISO学生委員会書記 佐藤圭介、堀川千	28年度目標設定・部分的微修正
2017年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会、環境ISO学生委員会書記 谷中稔侑、廣瀬雅	29年度目標設定・部分的微修正

〈柏の葉地区〉

環境方針 I. 総合大学としての特長を活かした環境教育・研究

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
I-1	環境関連研究	一般教育・研究部/実験系教育・研究部門	キャンパスにおける環境関係の研究を充実する。	環境に関係する研究を推進する。	[1]	学内での環境関連の研究状況について、ホームページ等の利用により積極的に情報公開を行う。	各教員	通年	ホームページ等によって確認する。	総務担当者	1回/半年	・環境と健康に関する教育研究を推進	○	—

環境方針 II. 環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-1	用紙類使用量削減	共通事項	用紙類の使用量を今後3年間にわたり年平均で1%以上削減する。	用紙類の使用量を前年度比で1%以上削減する。	[1]	裏紙の使用、両面印刷等の利用、電子媒体の利用及び使用済み封筒の再利用を促し、用紙類の削減に努める。	ユニット環境責任者	通年	アンケート等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・紙類購入量(A4版換算前年度比61.9%)	○	—
II-2	用紙類再利用	共通事項	用紙類の再利用・分別・回収を定着させる。	用紙類の再利用・分別・回収をキャンパス全体に浸透させる。	[1]	掲示物等によって再利用・分別・回収を促進する。	環境ISO学生委員会	通年	掲示物の貼付状況等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・古紙回収システムの推進 ・裏紙再利用の推進	○	—
II-3	水使用量削減	共通事項	水の使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	水の使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[1]	施設新設・増設・改修時の節水型設備の導入に努める。	施設環境部	施設の改修時	改修記録等によって確認する。	施設環境部	1回/年	・水資源投入量(前年度比94.2%)	○	—
					[2]	漏水等の早期発見とその処置の迅速化に努める。	施設環境部	通年	調査記録によって確認する。	施設環境部	1回/年			
					[3]	トイレ・水栓の維持・管理に努める。	施設環境部	1回/年	実施記録によって確認する。	施設環境部	1回/年			
					[4]	節水に努める。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・節水型設備の導入の推進 ・節水を促すステッカーを構内に掲示 ・漏水に対する早期発見と処置の実施	○	—
					[5]	ステッカー等によって節水を促進する。	環境ISO学生委員会	通年	ステッカーの貼付状況等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			
					[6]	2ヶ月毎の水の消費量を把握し、掲示板・ホームページ等により構成員・準構成員への周知を図る。	環境ISO学生委員会	通年	掲示物・ホームページ等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年			

No.	項目	対象部門	環境目的 2016～2018年度	環境目標 2017年度	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
						17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
II-4	廃棄物抑制	共通事項	廃棄物分別を徹底し、廃棄物の発生抑制、リユース・リサイクルの促進を図る。	廃棄物の分別と発生抑制に努める。	[1]	分別表示によって、キャンパス利用者に分別BOXや廃棄物集積所における分別を促す。	環境ISO学生委員会	通年	分別表示の有無によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	分別表示による分別促進	○	—
					[2]	ゴミの排出抑制に努めるとともに、ごみと資源等の分別を徹底する。	構成員、準構成員	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	一般廃棄物の排出量を把握し、掲示板等で構成員・準構成員に対して周知する。	環境ISO学生委員会	1回/月	掲示物等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-5	グリーン調達	共通事項	環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を大学の物品購入において推進する。	大学の物品購入において千葉大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。	[1]	グリーン購入法対象品目については、グリーン購入基準適合製品を選択する。	教職員(発注者)	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・グリーン調達方針の学内への周知を継続	○	—
					[2]	その用途の制約等から、グリーン購入基準適合製品以外の製品を選択した場合には、グリーン調達方針のとおり、その品目・数量を契約課に連絡する。	教職員(発注者)	通年	連絡された品目等の記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
II-6	化学物質管理	実験系教育・研究部門	化学物質の適正な管理を進める。	各種法規制を確実に遵守するための体制を整える。	[1]	ポスター等による適正管理の啓発活動を実施する。	ユニット環境責任者	通年	掲示物の貼付状況等によって確認する。	柏の葉環境責任者	1回/年	・化学物質管理システム(CUCRIS)の利用 ・不要薬品類の安全管理 ・廃棄促進	○	—
					[2]	千葉大学化学物質管理システム(CUCRIS)の利用等によって化学物質の適正な管理を行う。	化学物質取り扱いユニット	通年	巡視や報告の記録によって確認する。	安全衛生委員会	1回/年			
					[3]	未登録薬品のCUCRIS登録を徹底させ、化学物質の適正管理に努める。	取り扱いユニット	通年	CUCRISの記録や運用状況によって確認する。	柏の葉環境責任者	1回/年			
II-7	排水管理	共通事項	排水中の有害物質の濃度を定期的に低い値に下げる。	下水道排除基準を確実に遵守する。	[1]	定期的な検査を実施する。	環境ISO実行委員 総務担当者	通年	定期検査・集中検査の結果によって確認する。	事務部総務係	1回/年	・毎月下水濃度計量検査を実施 (下水排除基準超過無し)	○	—
II-8	緑の管理	外回り部門	キャンパスの緑の将来像を描き、適正な管理システムを構築する。	緑地の適正な管理システムの確立をめざして検討し実行する。	[1]	緑地の維持・管理に努める。	環境ISO実行委員 総務担当者	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/半年	・学生の実習等による管理	○	—
II-9	分煙環境整備	共通事項/外回り部門	分煙環境の整備と施設利用者への周知を通じて受動喫煙を防止する。また、歩行喫煙への対策を通じてポイ捨てを防止し、景観を向上させる。	分煙環境及び喫煙マナーの水準を維持する。	[1]	分煙環境の維持・管理を行い、問題があれば検討又は対策を行う。	環境ISO実行委員 総務担当者	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・喫煙マナー及び喫煙場所の周知	○	—
					[2]	千葉大学の喫煙対策指針に準拠した喫煙マナーと喫煙所の周知を行う。	環境ISO実行委員 総務担当者	通年	掲示物等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[3]	柏の葉地区構内において、禁煙に努めるとともに、喫煙をする場合には、千葉大学の喫煙対策指針に基づき、喫煙所を利用する。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

環境方針 Ⅲ. 学生主体の環境マネジメントシステムの構築と運用

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
Ⅲ-1	学生による環境活動	共通事項	環境ISO学生委員会を維持・発展させる。	環境ISO学生委員会と連携を図る。	[1]	環境ISO学生委員会と連携して、環境・エネルギーマネジメントシステムの運用を充実させ、活動を発展させる。	ユニット環境責任者	1回/年	検討記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・柏の葉地区のキャンパスエコマップの作成	○	—

環境方針 Ⅳ. 地域社会に開かれた形での環境マネジメントシステムの実施

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
Ⅳ-1	地域連携・地域参加	共通事項	地域交流を盛んにする。	地域社会と共に環境活動を行う。	[1]	センター祭における催し物を企画運営する。	総務担当者	1回/年	パンフレットによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・センター祭の実施 ・カレッジリンク・プログラム等の環境教育企画の実施	○	—
					[2]	地域社会と協力した環境教育企画を実施する。	総務担当者	通年	プログラム等の記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
Ⅳ-2	情報公開	共通事項	学内外へ情報公開を行う。	キャンパスにおける環境への取り組みについて学内外に発信する。	[1]	キャンパスにおける環境・エネルギーマネジメントシステムへの取り組みや環境情報をホームページ等に掲載し、学内外に発信する。	環境ISO学生委員会	通年	ホームページ等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	・環境報告書を公表	○	—

環境方針 Ⅴ. 国立大学の中での全国トップ水準のエネルギー効率の維持、改善

No.	項目	対象部門	環境目的	環境目標	項番	実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)		
			2016～2018年度	2017年度		17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
Ⅴ-1	エネルギー使用量削減・温室効果ガス発生抑制	共通事項	エネルギー使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	エネルギー使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[1]	施設新設・増設・改修・更新時には高効率機器の導入に努める。	施設環境部	施設改修時	設備機器表等によって確認する。	施設環境部	1回/年	・総エネルギー投入量(前年度比72.2%) ・電気使用量(前年度比68.4%) ・都市ガス使用量(前年度比100.5%)	△	・度重なるGHPの故障(29年度のみで5度故障)により、稼働効率が低下したことに伴うガス使用量の増加のため。
					[2]	講義室の空調機器の定期清掃を行う。	施設環境部	1回/夏期・冬期	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/夏期・冬期			
					[3]	事務室・研究室の空調機器の定期清掃を行う。	施設環境部	1回/年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

No.	項目	対象部門	環境目的		実施計画(2017年度)						(千葉大学環境報告書2018記載)			
			2016～2018年度	2017年度	項番	17運用手順			17監視測定手順			環境目的・環境目標と達成度評価一覧		
						項目	担当者	運用スケジュール	項目	責任者	測定頻度	主な取り組み	達成度	未達成理由
V-1	エネルギー使用量削減・温室効果ガス発生抑制	共通事項	エネルギー使用量を今後3年間にわたり年平均で原単位1%以上削減する。	エネルギー使用量を前年度比で原単位1%以上削減することに努める。	[4]	照明の消し忘れの防止、空調機器の適切な使用、上下2階までの階段利用の促進、夏期のクールビズ、冬期のウォームビズに努める。	構成員、準構成員	通年	アンケートによって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー大会議の開催</li> <li>・エコサポート制度を継続するとともに、エネルギー多消費型機器の使用状況を把握</li> <li>・省エネイベントの実施</li> <li>・省エネ啓発ポスター・ステッカーを掲示</li> <li>・エアコンフィルター清掃</li> </ul>	○	-
					[5]	照明の消し忘れの防止、空調機器の適切な使用、上下2階までの階段利用、夏期はクールビズ、冬期はウォームビズを促す案を行う。	環境ISO学生委員会	通年	実施記録によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			
					[6]	エネルギー使用量の内訳を把握し、削減方法を検討する。	施設環境部	通年	実施記録によって確認する。	施設環境部	1回/年			
					[7]	温暖化防止のための対策を検討する。	環境ISO学生委員会	通年	検討記録等によって確認する。	環境ISO学生委員会	1回/年			

改廃履歴

制定(改廃)年月日	起案者	内容
2004年 5月31日	実行委員会	新規制定
2006年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	18年度目標設定・部分的微修正
2007年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	19年度目標設定・部分的微修正
2008年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	20年度目標設定・部分的微修正
2009年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	21年度目標設定・部分的微修正
2010年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	22年度目標設定・部分的微修正
2011年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	23年度目標設定・部分的微修正
2012年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	24年度目標設定・部分的微修正
2013年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会	25年度目標設定・部分的微修正
2014年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会、環境ISO学生委員会書記 梅谷昌希、大森彩瑚	26年度目標設定・部分的微修正
2015年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会、環境ISO学生委員会書記 桐澤 凜、藤井かなる	27年度目標設定・部分的微修正
2016年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会、環境ISO学生委員会書記 佐藤圭介、堀川千秋	28年度目標設定・部分的微修正
2017年 4月 1日	松戸・柏の葉地区実行委員会、環境ISO学生委員会書記 谷中稔侑、廣瀬雅人	29年度目標設定・部分的微修正